

家族や身近な人との関係を見つめ直し、  
人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

# 人権作文

それは違う

阿蘇中学校1年  
佐藤 雛

「あの情報は本当なんです  
か。」

とテレビから聞こえてきました。私ははっと目をこらして見ました。一人の女性がマスコミに質問を次から次へとされていきました。女性がマスコミからこんなにしつこく質問されているのは、こういうことです。

ある日、女性の父親がひき逃げ事故を起こしました。しかもその事故で亡くなった方がいました。ところが、女性の父親は逃げている、ということでした。女性は事故のことを初めて聞かされたように、泣きながら話してしまいました。そのとき私は、どうして、この女性にしか聞かないのだろう。泣かせてまで聞くことかなと思いました。

三十分くらいずっと考えてみましたが、答えは浮かんできませんでした。さらにずっと考えて一つのことを思い付きました。「マスコミはそうすることが仕事だからしてい

るのだ。」と思う反面、「それは違う。」と思いました。

私は、女性を泣かせてまで取材する必要があるのかと、マスコミに対するいかりがこみあげてきました。きっとこの女性も、急な取材に驚いて、どうして自分だけこんな目にあわなければならぬのかと感じたと思います。

そして、私は父が横にいたので聞いてみました。「お父さん、この女性のお父さんたい、なんでひき逃げしたんだらうか。逃(に)げんかったら少しは罪が軽くなつたのね。」

と聞くと父は、「確かに、でもマスコミもマスコミだな。」

と、考えこむように言いました。その様子から、父の考えも私と同じようにマスコミに対して批判的に見ている部分があるのだと感じました。

それから十日ほどたちました。するとテレビにあの女性の父親の名前がありました。あの時、私と父が会話した通り、罪がとて重くなっていました。そのニュースを見て、女性の父親は、やはり逃

げずにその場で対応するべきだったと改めて感じました。

私はこれまでマスコミに対して、事実だけでなく、事実ではないことも、多くの人に見てもうらうらうために報道していることもあるのではないかと思っていました。そして、今回この女性の立場に立って考えたことで見えてきたことがあります。それは、マスコミが真実をきちんと伝えて、取材される側の気持ちもじっくり考えて欲しい、ということです。

私はマスコミが「いけない」「悪い」ということではなく、人々の真実を伝えられる、そんなマスコミであって欲しいと思います。

そして、私はこれからニュースを興味深く見ていきたいです。この事件はこうしていくべきだとか、うれしいニュースには、これを見た人はうれしくなるだろうなど、マスコミと意見を言い合うつもりで自分の意見を持つてニュースなどを見ていきたいと思えます。

## 《先生からのコメント》

この作文は、校内人権作文を一年生全体に呼びかけたときに書いてきたものです。この作文を作成する前に、国語の授業では「ちよつと立ち止まって」という説明的文章の学習をしました。その学習の中で、「普段何気なく見ているものでも、見方を変えると違って見える。」という内容を読み取りました。

今回この作文には、雛さんが普段見ていた「報道」に対してちよつと立ち止まって書いた内容になっています。この作文を読んで、フランスの作家サン・テグジュペリが『星の王子様』で書いた「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えない。かんじんなことは、目に見えないんだよ。」という王子様のセリフを思い出しました。現在の世の中には、たくさん情報があふれています。それはテレビの中だけの話ではなく、身の回りにもたくさん噂話や偏見が飛び交っています。今回の雛さんの作文を読み、流れてくる情報をただ鵜呑みにするのではなく、自分自身の「心」で受け止め、考え、返していくことが大切なのだ改めて感じました。そんな「心」を私も育てていきたいです。



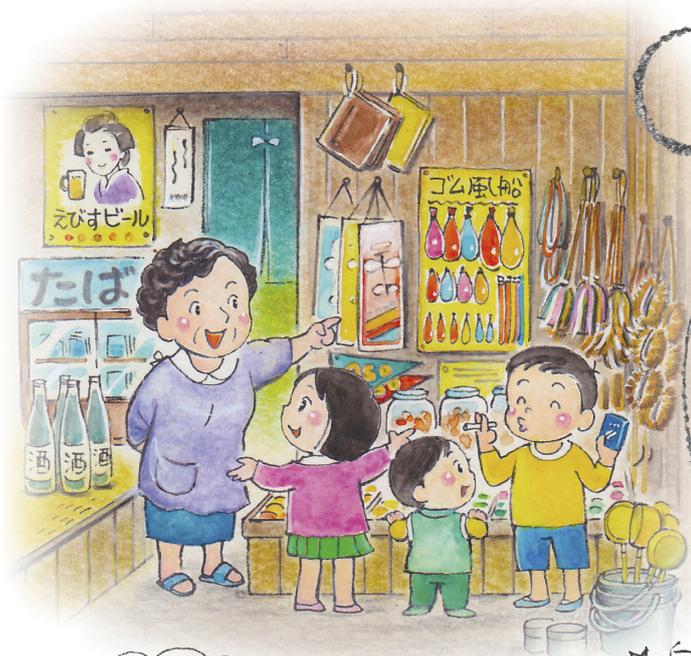
阿蘇市在住。  
絵や講演で活躍中。

絵・文 あべまりあ

「自然とともに遊び生活した子どもの頃の体験は宝物だ。心身を強くし、感性を豊かにする。阿蘇の大自然を守るために次代を担う若い人や子どもたちにもぜひ伝えたい！」と願い、あべさんが描かれた作品をお届けします。

## 田舎の mise (店)

mise (店) に行けば生活用品のほとんどが間に合った。店は村にこそなくてはならない存在であり、子どもたちにとっても、いつても、色とりどりのお菓子やジュースやあめ玉があってくじ引きまで遊べたり、冬には 凧やコマ、メシコ、夏は花火など、五円玉とか十円玉も持ってワクワクしながら出かけたものだ。



向こう側に口が付いているガラス瓶、こんぺい糖、あめ玉、店の人が袋に入れてくれた、私はあめ玉の卵が好きだった、つくだや、魚のふりかけ、缶づめ、頭さえさえ、

ニッキ水 & ニッキ紙 (ワタナベのジュースの素です)、刺激的~!! 粉、添加物、着色料、舌は黄色や赤色に変色~、

便せん、封筒、のし袋、石けん、ほみがき、軍手など、タオル、エプロン、酒も、しょう油も、塩も何んでもあった。

くじ、1回5円で好きな所もはがすと、月光仮面くじ、わあ、当たりだ~!!、2等賞、風船ガム、1コ、\*月光仮面のベルトとか、90までおっりの計算の早かったのなんのって!!、店のおシゲばあちゃん、

☆現・天皇陛下と美智子妃の結婚パレードを記念して村で最初のテレビが入ったのもこの店だった。

店には村で唯一の電話があった。遠方からかかってくると走って呼びに来てくれた、思えば色んな意味でここは私たち村の文化の発信地だったようだ、みんなテレビの結婚パレードにみとれていた。